

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
経済学	経済学とは、人々が営んでいる日々の生活、経済活動がどのような仕組みのもとでできているのかを、さまざまな側面から眺めようとする学問です。消費者や企業などの経済主体の経済活動を理解するとともに、市場メカニズムを通して生産や資源配分が、どのようにして行われているのかを明らかにし、よりよい社会をつくり出すには、どうすればよいのかを考察します。経済学に基づく分析手法が、現代の社会の様々な場面で用いられていることが理解できる。 現代の社会で用いられている経済学的な分析手法の原理について説明できる。 経済学的分析手法を用いて地域社会や自分自身の課題を解決することができます。	オンデマンド(オンライン)方式であったが、オリジナルの教材を作成して講義を進めた。カバーできる話題は限られたが、オンラインという制約を考えると、学生の関心をひきやすい題材を選ぶことができたと思う。高速道路料金、高級ホテルのコーヒー価格、オンラインゲーム等のサブスクリプション等を取り上げたが、反応はよかったと思う。	経済学は、問題演習が重要である。記述式問題中心で授業を進めたが、学生が自分のペースで学習を進めやすくするため、選択式の問題の実施にも留意したい。
L202028 経済学【S】	経済学とは、人々が営んでいる日々の生活、経済活動がどのような仕組みのもとでできているのかを、さまざまな側面から眺めようとする学問です。消費者や企業などの経済主体の経済活動を理解するとともに、市場メカニズムを通して生産や資源配分が、どのようにして行われているのかを明らかにし、よりよい社会をつくり出すには、どうすればよいのかを考察します。経済学に基づく分析手法が、現代の社会の様々な場面で用いられていることが理解できる。 現代の社会で用いられている経済学的な分析手法の原理について説明できる。 経済学的分析手法を用いて地域社会や自分自身の課題を解決することができます。	オンデマンド(オンライン)方式であったが、オリジナルの教材を作成して講義を進めた。カバーできる話題は限られたが、オンラインという制約を考えると、学生の関心をひきやすい題材を選ぶことができたと思う。	経済学は、問題演習が重要である。記述式問題中心で授業を進めたが、学生が自分のペースで学習を進めやすくするため、選択式の問題の実施にも留意したい。
S202049 経済政策	現在の日本で採られているさまざまな経済政策や繰り広げられている政策論争に対し、経済学的な見方で評価・分析できるようになることを到達目標とする。経済政策の標準的な理論と日本の現在の経済政策上の論点についての考え方について理解してもらうことも、この講義の目的である。	現実の経済政策の検討の前に、GDPの定義等、基礎的な経済概念や経済数値を身につけてもらうことが必要であった。その意味では、入門的な教科書を利用したことは適切であった。公的年金や社会保険の問題が重要になって来ているが、扱った回数十分ではなかった。旧カリから多くであり、本年度が最終であったが、新カリの関連科目に経験を継承できればと思う。	経済新聞を読む学生は少ないが、就活もあり、経済情報の重要性を認識させるようにしたい。上記のように、旧カリで本年度最後の科目ではあるが、新カリの関連科目で、そうした最新の経済情報の重要性に触れさせる授業を展開したい。
S202067 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントでき、ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培うことを目標とする。	就職活動が近づく時期でもあり、受講生が企業で働くことの意味についての理解を深めるよう指導した。しかし、短縮授業であったことから、プレゼンテーションの機会が少なかった。基礎的な文章作成能力はあっても、学術的な論文の執筆経験が乏しい学生が多く、文章指導に時間がかかった。	授業時間が短いため、より効率的な授業時間の配分が必要とされる。発表のローテーションを事前に十分調整し、無駄な時間が生じないようにしたい。
S202090 卒業研究	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	10名を指導したが、4年次から指導した2名が、転出された前指導教員の指導が行き届いていたこともあり、卒論を最も早く完成し、また理解度も高かった。3年次からの8名は、関心の違いから統一テーマを別々に設定した。結果として、それぞれのグループとしては問題がなかったが、ゼミ全体の相互評価の機械が不足していたのではないと思う。	多人数のため、テーマ別にグループで研究指導を進める方式は維持するが、ゼミ全体のグループ間の意見交換、相互評価も重要であり、そうした発表の回を設けたい。
S202021 経営戦略論(水2)	経営戦略に関する基礎的な知識を習得し、優れた戦略とそうでない戦略の違いを見分ける「戦略審美眼」を身につける。	経営戦略論は、2年後期の必修科目であり、経営学を学ぶ中での中核的位置づけられる。これまで学生が学んできたマネジメントに関する知識を体系化して理解させることができたと考えている。コロナ禍に伴い、学籍番号奇数と偶数に分けて、対面授業、授業動画によるオンデマンド授業を交互に実施し、概ね予定通りの教育効果が得られた。評価平均点4.4。	より学生が経営戦略を身近に感じられるよう、最新の事例を取り入れていきたい。
S202022 経営戦略論(木2)	経営戦略に関する基礎的な知識を習得し、優れた戦略とそうでない戦略の違いを見分ける「戦略審美眼」を身につける。	経営戦略論は、2年後期の必修科目であり、経営学を学ぶ中での中核的位置づけられる。これまで学生が学んできたマネジメントに関する知識を体系化して理解させることができたと考えている。コロナ禍に伴い、学籍番号奇数と偶数に分けて、対面授業、授業動画によるオンデマンド授業を交互に実施し、概ね予定通りの教育効果が得られた。評価平均点4.0。	より学生が経営戦略を身近に感じられるよう、最新の事例を取り入れていきたい。
S202030 専門ゼミナールⅡ(新カリ)	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく深層能力を身につけられるようにする。	金融経済の基礎知識について、文献を読んで、各担当ごとに発表し、討論を行った。このことにより、問題理解と解決提案をプレゼンテーションする能力と、意見や批判を受け止め、考える能力がある程度養われたと考える。評価平均点4.8。	学生がより主体的にリサーチ、プレゼンできるよう指導していきたい。
S202059 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業で実際にマネジメントできる。	ICTの進展に伴う最新の金融ビジネスに関する文献を担当別にプレゼンするかたで演習を行った。金融に関心を持つ学生が多く、やや難解な内容であったにもかかわらず、事前にリサーチして、意欲的な報告と討論が行われた。演習を通じて、経営的な思考能力と判断能力が養われたと考える。評価平均点4.6。	今後は、学生が興味を持つテーマを自ら設定して、報告できるように指導していきたい。
S202082 卒業研究【奥田真之】	学習から得られた問題意識に基づいて、その内容を卒業論文にまとめる。グラフ、図、フローチャートを用いて、自分の主張をより効果的に示すことができる。	これまでの学習の集大成として、各学生が興味をもつテーマを設定し、適切な参考文献による先行研究のリサーチと、リサーチクエスチョンに対する時分なりのアプローチの結果を卒業論文にまとめる指導を行った。卒業論文の出来栄には、ややばらつきがあるものの、いずれも合格点には到達することができた。	締め切り間際に、切迫した状況で卒業論文を仕上げる学生が散見されたため、今後は全員が計画的に進められるよう、スケジュール管理を厳格化していきたい。
S202003 経営と流行	達成目標 過去から今日に至るまでの経営手法を理解することができる。 時代に適応したビジネスモデルを理解することができる。	コロナ禍のため、授業は学籍番号を奇数・偶数に分け、隔週で対面授業・遠隔授業となった。授業方法としては、対面はパワーポイントを使用して解説し、遠隔では授業資料の配布とともに解説を文章で送った。明治時代から今日に至るまでの企業経営において、各時代における中心的な経済・産業政策や事業運営の手法を解説することで、将来を考え、未来へつなげる経営の視点を持つことができたと思う。対面授業は学生の反応が分かるので授業がやりやすいが、遠隔の場合は難しい。	授業評価 総平均 4.20 回収率 40.2% 明治時代から今日に至るまでの歴史的なインパクトに対する企業の対応を説明し、その経営手法を解説しているが、今後はもう少し事例を豊富に挙げながら現代の経営に対する影響力や価値が理解できるようにしたい。
S202009 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	コロナ禍のため、授業は対面と遠隔で交互に実施した。対面授業に出席すれば、その時間で授業内容を理解し課題提出もできるが、欠席者についてはきめ細かい指導が難しく、同じようなミスが目立った。特に2年生ゼミの選択、学修計画の作成等は遠隔授業では十分な説明ができず、学生もわからないまま進んだように思う。	授業評価 総平均 4.20 回収率 76.2% 自分の進路を考える基礎となる2年生ゼミの選択は、その後の学修計画の作成や将来の目標を明確にするうえで重要な部分であるため、ゼミ生と個別に対応する時間を取るなどして、学生が今後の学習に意欲的に取り組めるようにしていきたい。

S202036 戦略と流通	<p>・流通に関する基礎的な知識が修得できる。</p> <p>・流通の活動や形態について、専門用語を活用して説明することができる。</p> <p>・戦略的な流通を構築するための手法を理解することができる。</p>	<p>コロナ禍のため、授業は学番番号を奇数・偶数に分け、遠隔授業12回、対面授業を3回行った。授業方法としては、遠隔はテキストをもとに学習し、課題の解答作成を行い、対面では、遠隔で学習した内容のポイントを解説し理解を深めるようにした。学生に聴くと、遠隔で学習したことが対面授業でよく理解できたという声が多く、すべて遠隔にしないで対面授業をして良かったと思う。</p>	<p>授業評価 総平均4.10 回収率37.9%</p> <p>流通は身近なことであるので、事例を用いて解説し基本的な内容がしっかり理解できるようにして行きたい。</p>
S202052 消費者行動論	<p>消費者の購買行動の仕組みを理解し、消費者行動について説明できるようにすること。そして、消費者問題に関する知識を習得し、現代の消費者に求められる事柄について自分の意見が言えるようになる。</p>	<p>コロナ禍のため、遠隔授業12回、対面授業を3回行った。授業方法としては、遠隔は添付資料をもとに学習し、課題の解答作成を行い、対面では、遠隔で学習した内容のポイントを解説し理解を深めるようにした。新型コロナウイルスの感染状況が深刻になるに従い、対面授業の欠席者が増加した。遠隔授業の課題の未提出者も増加し、授業運営が難しかった。購買行動は誰が行うことなので、対面授業で事例を出しながら説明し、学生とやり取りする授業であれば、もう少し関心をもって授業に参加してもらえたのではないと思う。</p>	<p>授業評価 総平均4.50 回収率27.9%</p> <p>アンケートの回収率が3割に満たないので、この総平均値になったのは、関心をもって最後まで授業に参加した学生の評価であると推測する。この授業は旧カリキュラム科目のため、今期で最後となるが、学生の反応を見ながら授業ができれば、学生の関心度を下げないようにできると思う。</p>
S202056 専門ゼミナールⅢ	<p>経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。</p>	<p>授業の方法は、対面で行った。定期試験と振り返りは遠隔とした。前期の専門ゼミナールⅡで取り組んだ内容を基に、各自で関心のあるテーマに沿ってさらに情報収集を行い、分析を行った。その成果をパワーポイントで発表することでプレゼン能力が向上し、質問や意見、助言によってゼミ生同士のコミュニケーションが活発にできるようになった。ゼミのメンバーそれぞれが、多くの面で他者の意見や助言を基に改善でき、4年生の卒業研究につなげることができたと思う。</p>	<p>授業評価 総平均4.00 回収率25.0%</p> <p>個々の学生の関心事をもとに、情報収集・分析・パワーポイントでの発表を一通り行っているが、各段階における質的な向上を目指した指導を心掛けていきたい。</p>
S202080 卒業研究【伊藤万知子】	<p>自分のテーマに基づいた研究成果を卒業論文にまとめ、報告することで、高いコミュニケーション能力を発揮できるようになる。</p>	<p>授業方法は、対面を基本とし、定期試験と振り返りを遠隔で行った。授業の前半は就職活動でゼミ生が全員揃うことが難しい状況だったため、個人指導を中心にゼミ生個々の卒論研究の進捗状況に合わせて授業を進めた。就職活動等による欠席でゼミの授業時間内では指導時間が足りないため、授業以外の個別指導の時間を設けるようにした。各ゼミ生の進度に合わせて、卒業論文が完成するように指導したので、全員提出できたのは良かった。</p>	<p>授業評価 回答なし</p>
教職論（教育課程の意義及び編成の方法を含む）	<p>教職について関心をもち、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容・研修等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。現在の学校現場が抱える多様な問題の状況を把握すると同時に学校の教職員構造の転換（チーム学校の実現）の方策についても理解する。教育課程の意義、教育課程の歴史の変遷、果たす役割をとらえ、学校における教育課程の編成の重要性をとらえ、新しい学力観に基づいた教育課程の方向に関心を持って対応できる能力の育成を図る。</p>	<p>教職の意義や教員の役割について概説し、教職への意欲や適性等について多角的に考察する機会を設けたが、グループワークや発表の時間を十分にとることができず、自ら教員として、当事者として具体的な教育上の課題について取り組む姿勢や態度を育成できなかったことが課題である。</p>	<p>授業評価4.4 (4.7、4.3、4.3、4.5、4.4) 回収率80.0% 科目GPA2.80</p> <p>教員の職務内容や教育上の課題等について、具体的実践的に理解できるように演習やグループ討議などを行い、当事者としての意識を持てるように授業計画を工夫する。</p>
教育方法論（総合的な学習の時間の指導法を含む）	<p>教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して」とされていた総合的な学習は「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して」とより明確化された。この授業では総合的な学習の時間の目標、評価について意義、計画、指導、評価に関する基本を身につけることを目標とする。</p>	<p>授業計画で、前半は講義形式で、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付け、後半は演習形式で学習指導案の作成、ミニ模擬授業の実施で学生は主体的に学習を進めることができた。時間不足もあり、総合的な学習の時間の学習指導案の作成などについては不十分であった。</p>	<p>授業評価4.3 (4.3、4.2、4.2、4.3、4.3) 回収率50% 科目GPA3.17</p> <p>今後、現場が必要が高まるICT機器を実際の授業にどのように取り入れていくか、学習計画での導入のプラン、実際の模擬授業での使用法などを身に付ける場面を多く取り入れていきたい。総合的な学習については、なかなか学習の場を学生には想起できないので、学校現場の授業記録動画などを視聴させることによってイメージさせたい。</p>
公民科教育法Ⅰ	<p>公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法（学習指導案の作成）を身に付け、それをもとに実際の授業ができる能力をも身に付ける。</p>	<p>公民科の授業をする上で、本学の学生が不足している教科の知識を補うことができず、指導案の作成、および模擬授業では授業の構造化がうまくできずメリハリのない授業が多いのが反省点である。授業方法ではICT機器を効果的に使用したり、発問ができた点は評価できる。</p>	<p>授業評価未回答 回収率0.0% 履修者1名で欠席過多で成績評価なし</p> <p>公民科の基礎的な知識を確認する課題を与えて教科に関する知識を補うことなどを考えていきたい。学生が行う授業で学習目標を明確にするために、その授業に対応する評価問題の作成を通じて明確にしていきたい。</p>
教職実践演習（中・高）	<p>教職課程の他の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認することを目的とする。</p>	<p>教育実習を全員が無事終了し、教師としての自信と自覚が多くの学生が持つことができ、授業における様々な事例研究の議論や発表において教師としての見方、考え方で進めることができるようになった、しかも内容は実践的で中身の濃いものであった。</p>	<p>授業評価未回答 回収率0.0% 科目GPA3.53</p> <p>大学の校内の授業では、この科目の意図である現場ですぐに活動できるスキル・知識を育成することに限界もあり、今後は校外の授業の研究発表会への参加や高等学校訪問など機会を現状より多く設定したい。</p>
事前事後指導	<p>実習生は学ぶ生徒である立場と教える先生の立場とを兼ね備えるという視点から、この二つの立場の本質を理解することを重点にします。外部の学校での実習に臨むために、本校の学生としてふさわしい態度、言葉づかい、あいさつ等一般社会での常識を習得し、人間性を磨くことを含めて行います。教師としてふるまひ、学習指導案の作成と生徒の前で授業が出来る指導と実践ができる。教育実習をスムーズにできるようにすること。</p>	<p>少人数で教育実習を直前に控え、学生も欠席もなく前向きに取り組む、学習指導案の作成、模擬授業なども高いレベルで実施でき、学生もある程度の自信をもって教育実習の取り組みができた。また、実習中の流れと心得を実際、実践レベルでまとめたパワーポイントの教材の配信は学生に好評であった。</p>	<p>授業評価未回答 回収率0.0% 科目GPA3.27</p> <p>最近の学校現場を踏まえた授業形態、特にICT機器（実物投影機、タブレット、パワーポイントなど）の効果的な利用法を、講義だけでなく実際に使用させる授業も取り入れていく。</p>
教育実習Ⅰ	<p>授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。</p>	<p>この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。</p>	<p>授業評価未回答 回収率0.0% 科目GPAは授業科目でないため記載せず。</p> <p>教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図っていきたい。</p>
教育実習Ⅱ	<p>授業の目標としては、実習校で、教科指導、生徒指導を中心に実践的な能力の育成を図る。教育効果としては、学校現場において、教科の知識、指導技能、面談技能など実際の教育現場で対応できるようになることを目指します。</p>	<p>この科目、すべて教育実習校で行われる授業であることから、大学の担当教員としての自己評価はないが、教育実習中の巡回指導において学生との面談や指導教諭との連携はできた。</p>	<p>授業評価未回答 回収率0.0% 科目GPAは授業科目でないため記載せず。</p> <p>教育実習に対する事前・事後指導において、現在の教育現場に即した実践的な指導の場面を取り入れた工夫を図っていきたい。</p>

L202011 プレゼンテーションツール A1	①ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを目的とします。	コロナ禍のため授業は奇数偶数の隔週対面、隔週オンラインの授業となった。授業方法としては、対面は教科書に沿っての例題の解説。オンラインはそのビデオ閲覧となった。課題は、教科書の例題および演習問題であり通常の授業と変わらなかった。しかし、オンラインの場合、自宅にPCやオフィスそふとがない学生がいた。大学でPCの貸し出しをしているが大学にPCを借りに来る学生が少ないように思えた。そのため課題は未提出または他人の課題のコピーした学生が目立った。真面目に課題等をやった学生は目標が達成できたと思う。	授業評価 4.3 回収率 87.8% 科目GPA 2.78 アンケートからは、学生に満足されている。発表の機会が限られ、1人3分程度なので2回は発表させたい。
L202012 プレゼンテーションツール SD1	①ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを目的とします。	コロナ禍のため授業は奇数偶数の隔週対面、隔週オンラインの授業となった。授業方法としては、対面は教科書に沿っての例題の解説。オンラインはそのビデオ閲覧となった。課題は、教科書の例題および演習問題であり通常の授業と変わらなかった。オンラインの場合、自宅にPCはMACが多く教科書通りの動作とならない。大学でPCの貸し出しをしているが大学にPCを借りに来る学生が少ないように思えた。真面目に課題等をやった学生は目標が達成できたと思う。	授業評価 4.2 回収率 60.08% 科目GPA 2.55 アンケートからは、おおよそ学生に満足されている。オンラインの学生は自宅で動画を作成させ教室で放映した。これが学生から人気が高かった。
L202013 プレゼンテーションツール S1	①ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを目的とします。	コロナ禍のため授業は奇数偶数の隔週対面、隔週オンラインの授業となった。授業方法としては、対面は教科書に沿っての例題の解説。オンラインはそのビデオ閲覧となった。課題は、教科書の例題および演習問題であり通常の授業と変わらなかった。人数が少なかったためでも奇数、偶数の分割する必要がなかった。おおむね学生は目標を達成できたと思う。	授業評価 4.5 回収率 81.3% 科目GPA 2.81 受講人数が少ない分、予定より早く授業が進みいろいろなことを教えることができた。学生も余裕があり喜んでいてと思う。他のクラスも適正な受講人数にすべきである。
L202014 プレゼンテーションツール S2,A2,SD2	①ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。 ②課題発見、問題解決にICTを活用することができる。 ③社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。 コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを目的とします。	コロナ禍のため授業は奇数偶数の隔週対面、隔週オンラインの授業となった。授業方法としては、対面は教科書に沿っての例題の解説。オンラインはそのビデオ閲覧となった。課題は、教科書の例題および演習問題であり通常の授業と変わらなかった。このクラスは一番受講人数が多かった。学生発表時はビデオ撮影し、期間限定でオンライン対象学生に閲覧してもらった。これについての学生の評判は良かった。	授業評価 4.3 回収率 78.0% 科目GPA 2.34 アンケートからは、おおよそ学生に満足されている。学生の発表は受講学生にそれぞれの評価をしてもらい加点させ評価させた。また、各発表に対する質疑応答は活発に行われた。
S202028 専門ゼミナール II (新カリ)	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援します。	ITサポート試験の学習を行い、それぞれの単元を反転授業として行った。発表が得意で発表しなかった学生もいたが、大学生としては与えられた単元は発表しなければならぬ減点の対象となった。その分限定され単位が与えられなかった学生もいた。学生にとってはコロナ禍と相重なりつまらないゼミナールになったと思う。	授業評価 3.8 回収率 31.8% 科目GPA 2.13 ITサポート合格者は1名にだけとなり、あまり成果は出ていなかった。コロナ禍で友達とも会う機会が少なく残念に思うがもう少し楽しいゼミナール運営をしたいものである。
S202057 専門ゼミナール III	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	ITサポート試験の学習を行い、それぞれの単元を反転授業として行った。2年制まではコンピュータの学習をしてこなかったため、このクラスからは合格者がいなかった。また、学生にとってはコロナ禍と相重なり発表だけのつまらないゼミナールになったと思う。	授業評価 - 回収率 0 科目GPA 1.80 ITサポート合格者は1名にだけとなり、あまり成果は出ていなかった。コロナ禍で友達とも会う機会が少なく残念に思うがもう少し楽しいゼミナール運営をしたいものである。
S202073 システム開発	システム開発の進め方と、開発技法や設計書、テスト方法などに関する基礎知識を身につけることができる。 システム開発に関する専門的なスキルを身につけて活用できるようにする。	システム開発とは、プログラムをいくつか組み合わせ一つのシステムを作り上げる。例えば経理システムであれば、仕訳伝票が発生すれば貸方と借りに勘定科目コードと金額を入力する。それが現金出納帳が出来上がり、やがて「ランシード」まで出来上がるまでの工程がシステムである。なのでプログラムはむしろ仕事の内容も知らないでシステムが組めるのである。この科目は4生科目であり、単位不足の学生が受講してくるので間違っている。もともとこの科目は教員免許「情報」を取得するための科目であり情報処理試験にも出題される分野である。この科目をまったくコンピュータを学習したことのない学生に教えるのは至難の業である。	授業評価 - 回収率 0 科目GPA 2.0 コンピュータがわからないので、家を作るために何から作るからに始まり、並行してできる作業は何かを考え工程管理で授業が終わってしまうのが現実である。
S202094 卒業研究	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	コロナ禍でオンラインが多かったがそれなりにできたと思う。 文献の検索は自宅でもできるがプログラム作成と自分一人では難しかったのではないかと。いわれたことを一人自宅でできる学生に育ってほしかった。	授業評価 - 回収率 0 科目GPA 3.5 対面授業であればそれなりに論文の指導ができるが、オンラインとなると学生の気持ちがあいまいで、何を悩んでいるかが把握できなかった。もう少しコミュニケーションが必要であった。
L202005 スポーツB	①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。	個人種目のアーチェリーで、しかも集中授業ということもあり、受講者は10人であった。対面授業が不可能なため、オンラインでのビデオ視聴と課題提出をもって授業内容とした。 達成目標では、基礎技術の習得やルール・技能の理解、ゲーム運営を通して競技の理解を深め、実際のゲームにおいて、それを実践・発揮することとされていた。しかし、オンラインだけの授業では、知識的な理解にとどまり、十分に達成できたとは言いがたい状況であった。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、ゲーム実践の中での試行錯誤が重要で、少なくとも授業回の5割程度は、対面授業での実施が必要である。	授業評価3.90 (3.8, 3.8, 3.7, 3.8, 3.8) 回収率90.0% 科目GPA 2.70 2019年度の科目GPA2.71に比較し、今年度も大きな違いは見られなかったが、授業評価に関しては、あくまでもレポートの点数であり、実技科目としては十分に達成目標を達することができなかった状況である。 達成目標に対する授業評価を高めるには、ある程度の対面授業は必要であり、次年度は新型コロナウイルス感染症の収束に期待するが、終息されなかった場合も安全に留意し、安全に実技ができるよう工夫したい。
S202029 専門ゼミナール II (新カリ)	達成目標 経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	ケース分析の結果を、相互に意見交換をしながらプレゼンテーションすることで、プレゼン能力並びに意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけることができたとする。	総平均授業評価4.0 今後はケーススタディに基づき、事例と理論を紐づけして考えることができるように指導を行いたい。
S202068 専門ゼミナール III	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	専門ゼミナールIIで取り組んだ内容を土台とし、各自で関心のあるテーマに沿って踏み込んだ調査や分析を行った。その成果をパワーポイントで発表することでプレゼン能力が向上し、さらに他者の意見や助言を基にステップアップすることができたとする。	総平均授業評価4.5 事例研究(ケーススタディ)と理論を紐づけし、興味のある研究テーマを段階的に絞っていきようにしたい。最新の事象や変化をトピックスとして紹介し、研究テーマの検討にあたっての情報を質量ともに充実したい。
S202091 卒業研究	達成目標 企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。	卒業論文の作成を個別指導し、文献調査やインタビュー調査の手法の基本を指導した。その結果、個人差はあるものの課題発見力や論理的思考力が身についた。また論文執筆や報告会でのプレゼンテーションを通じ、文章表現力や口頭表現力を養うように心掛けた。ゼミ生全員が一定レベルの卒論を完成することができたとする。	今後は卒論執筆の指導において、各人の能力に応じ、よりきめ細かな個別対応を図りたい。

L202036 キャリアデザインVI S	達成目標 就職活動に必要な企業研究の方法を修得し、志望企業リストを立案できるようにします。エントリーシート、履歴書作成に必要な自己PRを作成します。面接試験に必要な技術を身につけます。	対面授業と遠隔授業のハイブリット形式で限界はあったものの、就職活動に向けて、企業・業界研究、自己分析、履歴書作成、面接などの就活プロセスを学習したり体験することで、有効な就活対策になったと考えられる。	総平均授業評価4.3 履修者が多数にのぼるが、自己分析や履歴書作成などできめ細かな個別指導を目指す。
S202004 経営と流行	達成目標 過去から今日に至るまでの経営手法を理解することができる。 時代の適応したビジネスモデルを理解することができる。	明治時代から今日に至るまでの企業経営において、各時代における中心的な経済・産業政策や事業運営の手法を解説することで、将来を考え、未来へとつながる経営の視点を持つことができたと思える。	総平均授業評価4.0 歴史的なインパクトに留まらず、事例を豊富に挙げながら現代の経営に対する影響力や価値が可視化できるようにしたい。
S202019 ショップ経営論	達成目標 商店の設立や運営に関する知識を理解することができる。 商店の多様な形態を理解することができる。 簡単なモデルの商店の設立や運営をすることができる。	開店準備や集客方法、雇用、経理など、実際に店舗を開店、運営する上での知識を学ぶことで、店舗経営に関する課題発見力や実践的な力が身につけることができたと思える。	総平均授業評価4.5 教科書の内容に忠実なあまり、紹介する事例が限定的だったので、事例を増やし、かつビジュアルで視覚に訴えるよう授業の素材を工夫したい。
U202003 マーケティングと広告	達成目標 ①マーケティングと広告の関係を理解することができる。 ②広告の媒体と表現について、現在の動向を理解することができる。 ③商品やサービス、企業を想定して、広告制作のプランニングをすることができる。	事例と理論を組み合わせ、マーケティングと広告が日常生活に身近な学問であることをわかりやすく説明するように心掛けた。評価の高いCMを事例としてとりあげ、関心を高めると同時に理解を促す工夫をした。	総平均授業評価4.4 広告企画の立案や企業のマーケティング分析の課題に取り組むことで、理論と実践的な内容が紐づけできるように工夫したい。
S202023 経営組織論	達成目標 ①人と組織のマネジメントの手法について理解することができる。 ②組織と戦略とのかわりについて理解することができる。 ③組織と人との関係を通して企業の経営活動について理解することができる。 組織と人との関係を考察することを通して組織マネジメントに必要な知識を習得することを目的とする。	組織理論について、組織と人との関係に関する考察を中心に実施した。 理論とともに組織の中の人間行動について、い何が起き何が問題となっているのかなど身近な問題を提供しつつ実施した。学生たちも身近に感じてくれたようであり、課題等への回答も興味深いものが多かった。	授業評価4.4 (4.5 4.2 4.3 4.5 4.6) 回収率33.8% 科目 GPA2.35 パワーポイントによる説明・レジュメ・VTR・課題の組み合わせを今一度検討し、3年次以降の専門科目への橋渡しの役割を果たすことができるよう工夫したい。
S202024 経営組織論	達成目標 ①人と組織のマネジメントの手法について理解することができる。 ②組織と戦略とのかわりについて理解することができる。 ③組織と人との関係を通して企業の経営活動について理解することができる。 組織と人との関係を考察することを通して組織マネジメントに必要な知識を習得することを目的とする。	組織理論について、組織と人との関係に関する考察を中心に実施した。 理論とともに組織の中の人間行動について、い何が起き何が問題となっているのかなど身近な問題を提供しつつ実施した。学生たちも身近に感じてくれたようであり、課題等への回答も興味深いものが多かった。	授業評価4.0 (4.0 4.0 4.0 4.0 4.1) 回収率41.5% 科目 GPA2.40 パワーポイントによる説明・レジュメ・VTR・課題の組み合わせを今一度検討し、3年次以降の専門科目への橋渡しの役割を果たすことができるよう工夫したい。
S202031 専門ゼミナールII (新カリ)	達成目標 経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	ゼミ課題である「これからの企業はどうあるべきか、働く人たちに求められるものは何か、そして、自分はどうに働き、生きていくのか」といった問題について、その考え方の基本をフィナンシャルプランナーを毎回ゲストに招き実施した。ゲストの協力もあり、課題は概ね達成できたと思える。	授業評価5.0 (5.0 5.0 5.0 5.0 5.0) 回収率11.1% 科目 GPA3.00 今年度のテーマを継続したい。ワークやプレゼンの機会が少なかったため、次年度は、それらの機会をできる限り多くしたい。
S202038 ファイナンシャル・プランニングII	達成目標 労働条件などのセーフティネットに関する知識を習得し活用することができる。	労働条件、社会保険や公的年金などの分野を中心に実施した。関係する知識の習得とともに社会でい何が起き何が問題となっているのかなど身近な問題を提供しつつ実施した。学生たちも身近に感じてくれたようであり、課題等への回答も興味深いものが多かった。	授業評価4.3 (4.4 4.3 4.3 4.3 4.4) 回収率34.1% 科目 GPA2.32 カリキュラム改定に伴い、次年度以降開講せず。
S202060 専門ゼミナールIII	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	ゼミ課題である「これからの企業や組織はどうあるべきか、働く人たちに求められるものは何か、そして、自分はどうに働き、生きていくのか」といった問題について、各自興味のあるテーマについて著書を選択させ、卒業論文にどのように発展させるかを考えさせた。課題は概ね達成できたと思える。	授業評価4.8 (5.0 4.5 5.0 4.5 5.0) 回収率25.0% 科目 GPA4.00 プレゼン回数の確保が難しかったため、プレゼン、ディスカッションの回数確保を図りたい。また、ワークやプレゼン方法を検討することにより、多様な働き方や生き方に対応したより実践的な内容とした。
S202083 卒業研究【草田清章】	これからのキャリア(自分らしい働き方や生き方)に関する知識を習得し活用することができる。 卒業論文を作成し、発表することができる。 これからのキャリア(自分らしい働き方や生き方)について、組織と人との関係、人材マネジメント、社会保障制度などから総合的にデザインすることができる人材を育成する。	卒業論文作成のための資料収集、概要作成を中心に実施した。これからのキャリア(自分らしい働き方や生き方)についての意識も高まり、課題は概ね達成できたと思える。	回答者なし 科目GPA4.00 プレゼン回数の確保が難しかった。プレゼン、ディスカッションの回数確保を図りたい。また、ワークやプレゼン方法を検討することにより、多様な働き方や生き方に対応したより実践的な内容とした。
L202004 スポーツB【A,SD】	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	2名の教員で、2種目に受講者を分けての授業形式であった。担当したのは30名、バドミントンの授業を行った。SAで14名、B,Cで13名、不合格3名という状況であった。 過程評価で高得点の学生は、実技内容でも向上が見られ、成果評価も高得点であった。 実技授業で、半分をonline課題で行うという形式で、十分な実技が行えなかった部分には学生もストレスを感じていたと思える。	受講生55名 回答44名 平均4.3 コロナ禍において、半数しか実技ができないのは、学生も担当者もストレスがたまる部分もあるが、今年度は、上手く対応できていたと考える。 今後も、様々な工夫して、達成目標に到達できるよう、受講生の満足感が得られるよう工夫していく。
S202011 経営の基礎II	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	コロナ禍において、対面授業とonline授業の組合せでのゼミ授業となった。 初めての担当授業であったが、半数程度は各ゼミ担当者に内容を任せられる授業となり、その内容の選定、教授方法に苦労した。学生も初めてのゼミ形式の授業であり、試行錯誤の連続であった。 また、経営学部では、全学年ゼミ形式授業が配置され、3年ゼミでは4年の卒業研究ゼミに直結するという状況、もっといえ、2年ゼミ選択時に方向性が決まることもあり、ある程度履修モデルを理解していないと、学生にとっても教員にとっても不幸な状況が生まれる。無理を承知で履修モデルの理解、履修計画の策定まで指導した。 online授業では、学生の理解度を提出された課題からしか把握ができず、難しいと感じた。また、ワード文書による課題提出などは、各自の情報リテラシーが反映されるため、その教授方法に配慮した。	受講生23名 回答20名 平均4.0 授業課題の理解度、課題提出(ワード文書)の理解度が十分ではなく、スマホだけで完結させてしまうことで、考える以前の学生が存在していた。 情報リテラシーをいかに身につけさせるか、工夫していきたい。

S202012 体力とトレーニング【開放】	体力の概念・測定方法・評価方法を習得できる。 健康と体力の関係について理解できる。 ライフステージに応じた健康問題と運動の視点についての知識を習得できる。	2名の教員による講義で、半数をonline授業としなければならなかったため、自身の授業をスライドビデオを利用したオンデマンド授業として実施した。対面授業でも、全員がしっかり聴いているわけではないと感じるが、オンデマンドでは、提出された課題からしか理解度が測れず難しく感じた。 スライドビデオの解説では、余談を含めて、柔軟に対応したが、学生の感想としては、対面授業のほうが頭に入って来やすい傾向を感じた。	受講生50名 回答33名 平均4.1 トレーニングの基礎理論として、運動生理学など多岐にわたる内容も含むため、講義内容をより精査して組み立てたい
S202020 球技スポーツ演習	球技スポーツに必要な基本的技能を身につけることができる。 球技スポーツにおけるルールとマナーを身につけることができる。 球技スポーツにおける戦略や戦術を工夫し、試合のレベル向上のための方法を考えることができる。	専門科目（開放科目）であったが、経営学部の学生の受講0。開放科目として、9名の受講に留まった。 対になっているのが、個人スポーツ演習であり、内容としては、集団スポーツの内容が求められている中、人数的に難しい面もあった。 また、授業回の半数がonline授業を求められていたため、種目をバスケットに絞って、ていねいに、技術論、戦術論を展開した。	受講生9名 回答7名 平均4.3 一番の改善点は、ある程度受講生の獲得であり、教養科目のスポーツとの違いを理解させることと考える。
S202070 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	原則として、スポーツマネジメント、スポーツビジネスに関するレポートの作成を目指したが、これまでの履修で、十分にその素養を身につけていない学生が多く、「自分で考える」以前の状況であった。 7名中3名の留学生在欠時オーバー、2名がまともなレポート作成できず不可となった。 合格した2名も1名は3分の1欠席で思うように進まず、1名は資料を与えても十分に理解できず、なかなか進まなかった。	受講生7名 回答なし とにかくゼミ授業に出席すること、できる限り細かい課題を与え、段階的にこなせるように指導していくことが必要であると考えられるが、欠席をして、なにもやらない学生をどのように指導していくのか、大きな課題を感じる。
S202093 卒業研究【藤原浩史】	体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。	今年度の2名は、卒業研究に向けて、細かい指導をよく理解し、着実に卒業研究にふさわしい内容に仕上げた。 前半の一部をonline授業で、課題をこなす形で実施したが、細かい指導を行うためには、対面でコミュニケーションが効果的であった。	受講生2名 回答なし 今年度は、自ら考えることのできる学生（3年編入留学生）であったため、順調に進められたが、自ら考えることのできない学生に対して、どのように指導していくか、工夫していきたい。
L202008 統計学A	①標本調査等の統計的な手法について理解できる。 ②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 ③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	受講生数が94名だったのでオンデマンド授業を実施した。学習過程評価は3回の宿題（満点の合計が50点）、学習成果評価は50点満点のレポート試験である。2019年度以前の（対面）授業で使用していたプリントに大幅加筆したプリントを毎週配信した。プリントを読んでよくわからないとの反応（UNIPAのQ&A、メールによる）があった翌週には補足のプリントを作成し配信した。授業プリントの内容をどの程度理解できたかを毎週回答してもらったが、多くの受講生から理解できたとの回答があった。科目の特性のためか、レポート試験で極端に低い得点をとる受講生がいなかったため、D評価の不合格者は少なかった。	授業評価4.0 回収率76.1% 科目GPA2.78 統計学は、建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3つのクラスを開講している。3つのクラスとも授業評価の値はほぼ同じであった。このクラスは、EおよびF評価の不合格者が10%程度であることが影響したためか、他のクラスと比べて授業評価アンケートの回収率が高かった。宿題および再試験に、有効数字を考慮して解答する問題を出題した。有効数字を考慮して解答する問題への解答内容から、有効数字に対する理解が十分でないことがわかった。2021年度の授業では、有効数字の扱い方に繰り返し触れていく予定である。
L202009 統計学SD	①標本調査等の統計的な手法について理解できる。 ②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 ③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	受講生数が91名だったのでオンデマンド授業を実施した。学習過程評価は3回の宿題（満点の合計が50点）、学習成果評価は50点満点のレポート試験である。2019年度以前の（対面）授業で使用していたプリントに大幅加筆したプリントを毎週配信した。プリントを読んでよくわからないとの反応（UNIPAのQ&A、メールによる）があった翌週には補足のプリントを作成し配信した。授業プリントの内容をどの程度理解できたかを毎週回答してもらったが、多くの受講生から理解できたとの回答があった。科目の特性のためか、レポート試験で極端に低い得点をとる受講生がいなかったため、D評価の不合格者は少なかった。	授業評価3.9 回収率53.4% 科目GPA2.21 統計学は、建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3つのクラスを開講している。3つのクラスとも授業評価の値はほぼ同じであった。このクラスは、EおよびF評価の不合格者が25%程度であることが影響したためか、授業評価アンケートの回収率が低かった。また、科目GPAも3クラス中最も低かった。宿題および再試験に、有効数字を考慮して解答する問題を出題した。有効数字を考慮して解答する問題への解答内容から、有効数字に対する理解が十分でないことがわかった。2021年度の授業では、有効数字の扱い方に繰り返し触れていく予定である。
L202010 統計学B	①標本調査等の統計的な手法について理解できる。 ②現代の社会で用いられている統計的な手法について説明できる。 ③統計的な手法を用いて身の回りの課題を解決することができる。	受講生数が113名だったのでオンデマンド授業を実施した。学習過程評価は3回の宿題（満点の合計が50点）、学習成果評価は50点満点のレポート試験である。2019年度以前の（対面）授業で使用していたプリントに大幅加筆したプリントを毎週配信した。プリントを読んでよくわからないとの反応（UNIPAのQ&A、メールによる）があった翌週には補足のプリントを作成し配信した。授業プリントの内容をどの程度理解できたかを毎週回答してもらったが、多くの受講生から理解できたとの回答があった。科目の特性のためか、レポート試験で極端に低い得点をとる受講生がいなかったため、D評価の不合格者は少なかった。	授業評価3.9 回収率44.0% 科目GPA1.93 統計学は、建築学科用、スマートデザイン学科用、総合経営学科用の3つのクラスを開講している。3つのクラスとも授業評価の値はほぼ同じであった。このクラスは、EおよびF評価の不合格者が30%程度であることが影響したためか、授業評価アンケートの回収率が低かった。また、科目GPAも3クラス中最も低かった。宿題および再試験に、有効数字を考慮して解答する問題を出題した。有効数字を考慮して解答する問題への解答内容から、有効数字に対する理解が十分でないことがわかった。2021年度の授業では、有効数字の扱い方に繰り返し触れていく予定である。
S202007 経営の基礎Ⅱ	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	受講生を学籍番号の偶奇により2つのグループに分け、学籍番号が偶数の学生には偶数週に対面授業、奇数週に遠隔授業、学籍番号が奇数の学生には偶数週に遠隔授業、奇数週に対面授業を行った。このような授業の実施方法が受講生に十分伝わらず対面授業を欠席する受講生が多かった。授業は、ある人物の伝記を読みその人物が組織の中でどのように生きてきたかについて受講生と話し合うという形式で進めた。受講生の国語力、これまでの人生経験の違いなどに応じて、有意義な話し合いになることも多かった。	授業評価4.5 回収率38.1% 科目GPA2.33 授業評価アンケートの回収率には、授業への出席率が反映していると思われる。次年度以降、伝記を読む授業を行う場合には、扱う人物の選択に十分注意を払う予定である。例年1年生のゼミの授業において実施してきた、2年生ゼミのゼミ選択の説明会は2021年度にはぜひ実施したいと思う。
S202055 専門ゼミナールⅢ	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	受講生を学籍番号の偶奇により2つのグループに分け、学籍番号が偶数の学生には偶数週に対面授業、奇数週に遠隔授業、学籍番号が奇数の学生には偶数週に遠隔授業、奇数週に対面授業を行った。受講生の中には、新型コロナウイルスへの感染回避を理由に公欠を申し出た学生および母国滞在中の学生がいた。このような状況でインゼミでの発表準備を行ったため、思うような指導ができなかったと感じている。	授業評価4.9 回収率27.3% 科目GPA3.18 授業評価アンケートへ回答するよう何度も呼びかけ回収率が高くなるよう努力したい。これまでも統計学の手法を用いて課題を解決し、その結果をインゼミで発表させてきたが、課題解決に用いる統計学の手法の種類を増やす予定である。
S202078 卒業研究【木村秀幸】	論理的な思考ができるようになる。数学的に問題を解決することができる。	受講生を学籍番号の偶奇により2つのグループに分け、学籍番号が偶数の学生には偶数週に対面授業、奇数週に遠隔授業、学籍番号が奇数の学生には偶数週に遠隔授業、奇数週に対面授業を行った。このような状況で卒業論文の指導を行ったため、例年以上に指導に時間が必要であった。また、卒業論文の最終審査会を1対1で実施したため他の受講生の発表を聞くという貴重な機会がなくなってしまったことは残念であった。	授業評価--- 回収率0% 科目GPA1.88 授業評価アンケートへ回答するよう何度も呼びかけ回収率が高くなるよう努力したい。このクラスには、履修を学期途中で放棄した受講者が3名いたため、科目GPAが4年生のゼミにとりしては大変低かった。これまでも統計学の手法を用いて課題を解決し、その結果を卒業論文としてきたが、課題解決に用いる統計学の手法の種類を増やす予定である。

S202006 経営の基礎 I	①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。 ④高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につける。	前期に引き続いて、毎週、オンライン（遠隔）授業と一部の希望学生には対面授業を行った。毎回の演習課題（授業内課題）をUNIPAの画面から配信し、学生は期限までにきちんと提出（返信）してくれた。第11週の授業には、ほとんどの留学生が出席して、2年次のゼミ選択を真剣に検討した。 留学生の何人かが「2年生のゼミも、先生のゼミを取りたい」と言ってくれた留学生が何人かいたことが嬉しかった。また、留学生たちの不安や悩みの相談役として取り組んだ。	授業評価 4.50 留学生とのコミュニケーションは、ウェブ上や対面でよく取っていたので、特に改善すべき点はないと思われる。
L202017 英語コミュニケーションB【A,SD】	①アメリカ留学の日常生活のいろいろな場面において、コミュニケーション・ストラテジーを駆使しながら、英語で積極的かつ円滑にコミュニケーションをとる態度と技能を身につける。 ②さまざまな状況において英語で積極的に話しかけ、応答できるような姿勢を身につける。	履修者が70人を超えたので、オンライン（遠隔）授業に切り替えた。毎週、UNIPAからユニットの教材や資料を配信し、特にユニットのPPFファイルと音源を活用し、毎週、演習課題（授業内課題）を提出（返信）した。そして、学生が提出した課題を点検し、個々の学生に評価フィードバックをした。時々、学生からの「授業Q&A」を通じて、学習相談を受けた。学生は単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習を行うことで、ある程度高度な英語の授業を展開することができた。	授業評価 4.20 対面授業と異なり、対面授業のように十分なコミュニケーションを取りながら授業を進めることができなかったが、学生は自分のペースで学習を進めることができたと、満足度（評価）は高かった。今後は、学習意欲の高い留学生と最初から英語学習に消極的な日本人学生との混合クラスでは、互いに英語力を伸ばすことを目指したい。
S202042 異文化コミュニケーション	①普段何気なく接している物事について客観的に見直すきっかけを提供し、文化や社会制度の違い、その背景や理由を英語で理解し説明できる。 ②さまざまな文化的背景をもった人々が英語を通して互いを理解し合うことです。将来のキャリアに必要な資格を取得し、専門的スキルを活用できる。	毎週、テキストのユニットの流れに従って対面授業を展開した。履修者は、中国人留学生と日本人学生であった。日本人学生が「とても勉強になります」と言うほど充実した授業になった。通常のようにペアワークやグループワークを取り入れることができなかったが、単語の発音練習や会話とエッセイの音読練習をきっちりと行うことで、ある程度高度な英語の授業を展開することができた。	授業評価 4.50 受講生はこの授業で満足感を得られたか、高い評価をしてくれたのではないかとと思われる。毎回、学生は出席して、演習課題や宿題を提出できたので、受講生の成績が良いことと授業評価は大いに関連していると考えられる。
S202061 専門ゼミナール III【旧カリ】	①経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ②ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	本ゼミナールでは、ビジネスにおいて不可欠である異文化コミュニケーション力とは何かについて調査・研究を行い、グループで口頭発表することをメインの学習内容としている。5人のゼミ生の内訳は、ネパール人留学生1人、中国人留学生3人、日本人学生1人である。それぞれの国や文化の背景が異なる学生たちが、個人で選択したテーマに向かって研究発表に取り組むことを学習の柱とした。 その結果、学生たちそれぞれの国のビジネス上の文化的特徴を見つけ出し、それが他の国の文化的比較をすることで、どんなことに注意をするとコミュニケーション力が身につけられるかについて発表できたように思われる。	授業評価 3.90 ゼミ生は毎週の授業に皆出席して、演習課題や宿題を提出し、プレゼンテーションも比較的満足できるレベルであったので、今後も引き続いて高い評価を得られるよう努めたい。
S202084 卒業研究	①企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 ②ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	毎回テキストに基づいて、論文作成のステップ・バイ・ステップ方式で授業を展開した。受講生は毎週書き足した論文を受講者全員の前で読みながら、修正すべき箇所を述べた。それをもち帰って、次週、修正した論文を持ってきて、再度受講生の前で読み上げ、修正箇所が本当に修正されているかを確認するという一連の作業を行った。 中間発表会はゼミ内で行ったが、卒論審査発表会ではできなかった。中間発表会に際しては、事前に何度もリハーサルを行い、パワーポイントの slides の修正を行い、時間内に発表できるようにするまで、繰り返し練習をさせた。	0 GPA0.67(F以外1.5)履修者6名 再履修3年生であったため、2名しか参加しなかった。学生の状況に合わせた、進路指導を行った。 再履修で最終学年のため、学生の状況にあった対応をしていきたい。
L202002 キャリアデザイン II 旧カリ3学科合同	意欲的な人生設計の実現に向けた実践的な行動がとれるように、社会への入り口に必要な基礎知識を理解することができる。	再履修6名中授業への参加者2名であった。3年生であったため、個別に説明しながら、就職に向けて解説した。	GPA0.67(F以外1.5)履修者6名 再履修3年生であったため、2名しか参加しなかった。学生の状況に合わせた、進路指導を行った。 再履修で最終学年のため、学生の状況にあった対応をしていきたい。
S202014 簿記 I【開放】	「現代生活と会計」で学習した内容を基礎とし、さまざまな取引（株式会社会計処理を含む）を理解することができる。試算表および精算表を作成し、勘定式の貸借対照表および損益計算書を作成することができる。	基本的に対面授業を実施した。しかし、遠隔授業にも対応できるようにした。まじめに登校した学生は、楽だと言っていたが遠隔授業を希望した学生は本を読まずに質問することが多かった。	授業評価4.0(4.2、3.8、4.0、4.0、4.1) 履修者112回答者数51 回答率45.5% 科目GPA1.99(F以外2.16) 遠隔用にテキスト頁も指示していたが、動画や大きな活字で作成していく。
S202017 コンピュータ会計	証券などの領収証や納品書などで仕訳をして、会計ソフトに表示される財務諸表のデータを読み取り、問題点を解決できる。企業の現状分析や、短期利益計画、資金繰り表の作成まで理解し、会計ソフトを活用できる。	基本的に対面授業を実施した。しかし、遠隔授業にも対応できるようにした。会計ソフトの操作の基本を理解してもらえたと思う。	授業評価4.3(4.5、4.2、4.3、4.2、4.3)履修者27回答者数15 回答率55.6% 科目GPA3.14(F以外3.50) 様々な対応ができるよう教えていきたい。
S202032 専門ゼミナール II (新カリ)	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	授業の性格上、個別指導で実施した。 資料配信による会計分野の事例をレポートにするとともに、他の学生に対して説明できる力ができるように指導を行った。	授業評価4.3(4.7、4.2、4.3、4.2、4.2)履修者16回答者数6 回答率37.5% 科目GPA3.6(F以外3.80) 資料配信による会計分野の事例をレポート提出させたが時間がなかった。指導方法を検討する必要がある。
S202062 専門ゼミナール III	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	授業の性格上、個別指導で実施した。 資料配信による会計分野の事例をレポートにするとともに、他の学生に対して説明できる力ができるように指導を行った。	授業評価4.6(4.0、4.0、5.0、5.0、5.0)履修者4回答者数1 回答率25.0% 科目GPA4(F以外4) 資料配信による会計分野の事例をレポート提出させたが時間がなかった。指導方法を検討する必要がある。
S202076 情報化と経営	ワード、エクセル、パワーポイントを活用しながら、現代の企業分析・市場分析に関わるデータ処理を主体的に行うことができる。	2名しか登録がなく、自宅にあるパソコンを利用しての作業をおこなった。ZOOMやじゃあ資料の配信に時間がかかった。学生の課題提出が期限ぎりぎりの対応であったため、携帯やメールに連絡しながら行った。	履修者2回答者数0 回答率0.0% 科目GPA2.25(F以外2.25) 提出期限を前倒しすることにする。4年生で卒業がかかっているにもかかわらず、提出できない問題児が多かった。連絡を密にして提出されていきたい。
S202501 現代生活と会計【臨時開講】	帳簿記入をする上で簿記一巡（貸借対照表および損益計算書を作成するまでの流れ）を理解することができる。 基本的な項目である現金の処理、商品売買の処理、手形の処理を理解し、会計処理することができる。	遠隔授業と対面授業の両方で実施した。その他、8回答者に対して補講を実施した。また、他の学生に対しては、ユーチューブによる動画を配信した。さらにパワーポイントに解説をいれて動画として配信も行った。動画を配信することで復習ができると好評であった。	授業評価3.8(3.5、3.6、4.2、3.7、3.8)履修者60回答者数16 回答率56.0% GPA2.25(F以外2.68) 補講や対面授業に来た学生には相談にもつてあげたが遠隔希望の学生にはうまく伝わらないことがあった。ユーチューブや動画でもできるように準備したい。動画を配信することで復習ができると好評であった。
S202085 卒業研究【鶴見 正史】	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。	授業の性格上、個別指導で実施した。 全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポートにするとともに、他者に対して説明できる能力の育成に重点を置いて指導を行った。	履修者6回答者数0 回答率0% GPA3.40(F以外3.40) 研究テーマの選定に時間がかかった。夏休みにも5冊以上の書籍を課題として読むように指導をしていきたい。

S202037労働法	労働法の知識を活用して、遭遇するであろうさまざまな職場のトラブルに際して、リーガルマインドをもって、冷静に法的対処をすることができる。 ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	労働法は、2年生の選択科目であり、企業経営あるいは就職するものにとって重要な科目である。授業は、おおよそ計画通り比較的円滑に進めることができた。コロナ禍ではあるが、遠隔授業も工夫して講義レベルを維持し、学籍番号奇数と偶数に分けて対面授業も実施するなどして、概ね予定通りの教育効果が得られた。労働問題の本質を考察することを目的としたが、学説や判例の検討などが十分に理解できていなかった。労働基準法を概観して、問題点を理解し、法的な分析方法は一定レベル学ぶことができた。	授業評価4.2 (4.3、4.2、4.2、4.2、4.3) 回収率37.3% 科目 GPA2.30 (F以外2.53) 学生が労働問題を身近に感じられるよう、新聞記事等の最新の事例を取り入れていきたい。
S202033専門ゼミナールII (新カリ)	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てる。 この関心や興味や履修モデルによる学習計画に反映され、総合経営学科の様々な分野の中から、自らの能力や適正にあった学習志向を見定めるよう支援する。	労働法の基礎知識について、文献を活用して議論することで、問題点を掘り下げることができた。このことにより、レジュメ作成、プレゼンテーション資料作成の基礎を学ぶことができた。 様々な意見に触れることで、一定程度の問題の本質に触れることができたと考えられる。また、就職のためのビジネス実務マナーについても、問題集を通じて学ぶことができた。	授業評価4.8 (4.9、4.7、4.8、4.8、4.8) 回収率64.7% 科目 GPA4.0 (F以外4.0) 判例研究において、学生がより主体的に取り組み、プレゼンテーションできるように、基本から指導していきたい。
S202063専門ゼミナールIII	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	労働法の専門知識について、判例集を活用して議論することで、問題点を掘り下げることができた。このことにより、レジュメ作成、プレゼンテーション資料作成のスキルをあげることができた。判決に対する批判的な意見に触れることで、一定程度の問題の本質に触れることができたと考えられる。また、就職のためのビジネス実務マナーについても、問題集を通じてより深めることができた。	授業評価4.5 (5.0、4.5、4.5、4.0、4.5) 回収率25.0% 科目 GPA3.75 (F以外3.75) 判例研究において、学生がより主体的に取り組み、プレゼンテーションできるように指導していきたい。
S202086卒業研究【三田村 浩】	企業や会社のマネジメントについて、自分自身の考えを持ち、それを効果的に表現することができる。 マネジメントに必要な基礎的スキルを身につけるとともに、将来のキャリアに必要な資格あるいは公務員試験対策を通じて、専門的スキルを培う。	これまでの学習の集大成として、前期からの各学生が興味をもつ労働法のテーマを設定し、主要な参考文献と最新判例の選定をもとに、効果的な構成に従って実際に卒業論文にまとめる指導を行った。卒業論文として全員が合格点には到達することができたが、文章力にばらつきが出た。内容として、メインの章で一定のオリジナリティは実現できたと考えられる。	科目 GPA3.60 (F以外3.60) 卒論作成において、学生がより主体的に調査し、プレゼンテーションできるように、個別に指導していきたい。
S202016法学概論	法の解釈など、法学習の基本的取り組み方やリーガルマインドについて理解することができる。 遭遇するであろう様々な法的局面で適切に対応することができる。 ビジネスパーソンとして必要な教養と職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつ法的思考力から判断することができるようになる。	法学概論は、1年生の選択科目であり、今後法律科目を進めていく上で重要な科目である。授業は、おおよそ計画通り比較的円滑に進めることができた。コロナ禍ではあるが、遠隔授業も工夫して講義レベルを維持し、学籍番号奇数と偶数に分けて対面授業も実施するなどして、概ね予定通りの教育効果が得られた。企業にかかわる法律を学習するために、基礎となる法学の基本を学ぶことを目的としたが、法律体系や各法律の特徴が十分に理解できていなかった。法学を概観して、各法律の主な問題点を理解し、法的思考力は一定レベル学ぶことができた。	授業評価4.2 (4.3、4.1、4.3、4.2、4.2) 回収率53.1% 科目 GPA2.24 (F以外2.29) 学生が法律問題を身近に感じられるよう、新聞記事等の最新の事例を取り入れていきたい。
S202002企業とCSR	企業が発展するにつれて、自らの社会的責任を果たす必然性が出てくることを理解することができる。 企業の社会的責任(CSR)の内容について理解することができる。 企業の社会的責任の源流について理解する。 企業の社会的責任の最近の動向について理解する。	1年生科目としてはやや専門的な内容の科目なので、どれだけ授業内容を理解してもらえらるか苦心しているが、コロナによって遠隔授業としての実施を余儀なくされた(履修者が120名にも上り、感染対策上の措置としての意味合いもあった)。そこで授業で用いるパワーポイント資料に音声解説を毎回入れることにより、少しでもライブ感を感じてもらおうと、文字だけでは伝わらない要素を学んでもらうことに務めた。また余り量が多くなり過ぎず、1年生にとっても適切な分量で学習してもらおうことを意識した。なお2回分補習という形で対面授業も実施したが、任意参加としたため参加者は1桁に留まってしまった。	授業評価4.0 (4.1、3.9、4.0、4.0、4.0) 回答率50.8% 回答者数が履修者数の半分程度という点をどう解釈すべきかという問題はありますが、履修人数が多い割には平均的な結果が収まったという印象を持った。遠隔授業としては一定の教育効果があったとも考えられるが、やはり対面授業で行っていただければもっと充実した内容に出来たのではという問題意識は残る。授業分量としては適切と判断しているが、次年度以降対面方式に戻った場合に適切なかどうか探していきたい。
S202048経営倫理	企業不祥事が世の中をにぎわす中、経営に何故倫理が求められるのか、企業の社会的責任(CSR)の必要性を踏まえながら理解できるようにする。ビジネスパーソンとして必要な職業的倫理観を身につけることができるようになる。	コロナウイルス感染渦の中での講義となったことで、履修者も94名と多いことから遠隔授業として行うこととなった。対面授業に比べると細かな要素を教え尽くせないか否かという点も、少しでもライブ感を感じてもらおうと、毎回の授業資料として作成したパワーポイント資料に音声解説を入れて、ただ文字を眺めるだけに比べれば少しでも授業内容を理解し易くなる工夫を試みた。また2回ほど補習という形で対面授業を実施したが、任意参加としたため参加者は1桁に留まってしまった。	授業評価4.2 (4.3、4.1、4.3、4.1、4.3) 回答率28.7% 評価値自体はやや高めに出了ものの、回答率が履修者の3分の1以下なので信憑性となると些か下がってしまうと考えられる。ただ筆者の専門分野の授業で、かつ自分としても「教えて楽しい」科目と思っていたので、少しでもその辺りが伝わっていたのだとすれば有難いことである。旧カリ科目で今年度が最後ののが惜しいと感じる。
S202047経営哲学特講II	現役経営者の講義から、将来自分が経営者・管理者に就任した時に必要な経営実践のヒントを学び取ることができるようになる。 講義の内容を理解し、講義内容の要点を授業時間内課題に正確にまとめられることができるようになる。実社会で活躍される現役経営者のお話から、経営という仕事にはどのようなことが求められるのかを学び取り、自らのビジネスパーソンとしての教養及び経営実践能力の向上に反映させることを目的とする。	前期同様後期もコロナ感染対策のため遠隔授業主体とすることを余儀なくされた。履修者116名のため仕方の無い措置ではあったが、それでも1回は特別講師による講義を生で体験して欲しい意向が担当教員にあったことから、学番奇数組と偶数組に分けて計2回分特別講師による授業を展開した(講師は別々)。学生の立場からするとライブ授業に1回分しか参加出来なかったのが残念な所ではあるが、この貴重な経験を今後是非とも活かしてもらいたいと願って止まない。それ以外は過去講義のビデオ放映で対応したが、この様なイレギュラーな展開は今年度限りにしたいというのが担当教員としての本音である。	授業評価4.2 (4.3、4.1、4.2、4.4、4.2) 回答率31.9% 評価値自体はやや高めに出了ものの、回答率は履修者全体の3分の1にも満たないで余り信憑性のある数値とは言い難い。ただ本科目を受講して良かったという層の履修者に回答して戴いたのだとすれば、一定の学習効果はあったとも言えると同時に、遠隔授業主体になってしまったことで非常に申し訳ない思いが一杯である。本科目は留学生にとっては鬼門ともいえるのが現状ではあるが、一定期間提出までに時間が確保出来るので結果的にはプラスに働いたケースがみられた。逆に運用方法を元通りに戻した場合に混乱が起こる可能性も想定する必要があると考える。
S202027専門ゼミナールII (新カリ)	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。 総合経営学科の専門教育を履修していく自立的学習を支援するために、経営における総合的判断力を育てる。	後期の筆者担当専門ゼミナールIIはゼミ生が全員留学生という構成になったことで、母国の企業について研究調査して、ライバル企業同士を比較考察させるという内容で展開した。対面授業の回数も増やし、特にプレゼンテーションの回は拙くとも楽しそうに発表するゼミ生が多かった。ただ日本語能力には限界があるゼミ生も多く、どうしても留学生向けのメニューという色合いが強まってしまったきらいはある。	授業評価4.8 (5.0、4.7、4.7、4.8、4.9) 回答率81.3% 全員が回答したわけではないが、数値自体は高めに出了。留学生は比較的高い評価をする傾向にあるので実際はどう解釈すべきかという問題はあっても、留学生に向けた内容で展開したことから一定の評価が得られたのではとも感じている。中国系と日本系にははっきり分かれる感じはあったものの、ゼミの雰囲気自体は良かったと思う。今後もその時その時のゼミの雰囲気に合わせて指導していきたい。
S202064専門ゼミナールIII	経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	後期においてプレゼンテーション中心の一部対面方式ゼミを解禁したが、大学に登校してくるゼミ生とそうでないゼミ生とで意識の差のようなものを感じてしまったことも確かである。当初はインゼミが開催される前提でCSRに関連するテーマを設定させ調査研究成果を発表させる方式を考えていたが、結局単独ゼミでのプレゼンテーションに留まってしまったことは残念である。最終的には各自ゼミ生なりにまとめられていたと感じた。	授業評価4.8 (4.8、4.8、4.9、4.9、4.9) 回答率81.8% 対面ゼミに出席したゼミ生からは概ね高い評価を得られる傾向がみられた。遠隔ゼミ受講者はプレゼン時にZOOMを利用して少しでもハンディを縮める試みを行ったが、やはり直接指示したかったのが本音である。今後も遠隔ゼミ受講者への対応を含め指導において工夫を重ねていきたい。

S202087 卒業研究	CS R関係の問題に関連したテーマを自ら制定し、そのテーマを調査・研究し解明していく。それによって社会に真摯に仕える能力を身につけることができるようになる。 CSR関連の学習の成果として、CSRや「企業と社会」絡みの分野の範囲内で各自卒業テーマを制定し、卒論作成を進めることを目的とする。そして社会に真摯に仕える能力を身につけてもらう。	後期からは対面方式の指導を一部解禁したものの、卒論作成においてゼミ生の間でも例年以上に取り組み具合に差が出てしまったきらいは否めない。中には中間発表会の時点でもテーマが確定しなかったゼミ生もいた。逆に将来の起業を意欲したテーマ設定でオーバーワーク気味に映ったゼミ生もあり、個別の指導の仕方に例年以上の幅が出てしまった。不思議と余り真面目に取り組んでいない様に見えたゼミ生が提出日には間に合わせてみせたり、逆に真面目に取り組んでいたのに余りに不器用すぎて提出日に完成が間に合わなかったゼミ生も出てしまった。良くも悪くも一筋縄では行かない学年だったと感じる一方、如何に的確にモチベーションを維持させていくか一層の工夫が求められるということを学ばされた次第である。	<回答者無し> 自己評価の所でも記述したが、如何に卒論に取り組ませるかというモチベーションを与えることについて色々工夫が必要と感じさせられたので今後考慮していきたい。また参考図書を早期に探させる工夫も必要と感じている。
日本の経営文化	達成目標 ①日本企業の経営にはどのような文化的背景があるのかを理解できる。 ②日本の経営文化がビジネスにもたらす影響を理解できる。	日本企業の事例をもとにして授業を進めたことで、経営学の基礎用語や日本の企業経営について関心を持ち、理解が深まったと思われる。	授業評価4.0 (3.9、4.0、4.0、3.8、4.1) 回収率35.1% 日本の企業経営の歴史を説明するため、とりあげた日本企業の事例が限定的だった。受講生の留学生世代でも知っているような、今時の事例を増やしていきたい。
監査論	達成目標 会計監査の概要や株式会社の財務報告制度を理解し、監査報告書が理解できる。	日本企業の大きな粉飾事件をもとに会計監査制度や財務報告制度の解説を行うことで、会計監査制度の基礎理論や、制度改定が繰り返された原因を理解することができたと思われる。	授業評価3.8 (4.2、4.0、3.6、3.6、3.4) 回収率18.5% カリキュラム変更により次年度以降は開講されない科目である。
専門ゼミナールⅢ	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。	財務分析のテキストにそって、各自が関心をもち選択した企業の分析を行ったことで、企業分析の仕方、企業の状況の把握、5年間の企業数値の変化の読み取りについて、理解が深まったように思われる。	授業評価4.1 (4.5、4.0、3.0、4.5、4.5) 回収率40.0% 財務分析の手法に各企業の数値をあてはめていくことに時間がとられたので、財務分析で得られた数値等の原因分析や、戦略の読み取り等に、より多くの時間を割いていきたい。
卒業研究	達成目標 財務会計に関するテーマ設定、テーマに沿った資料収集・文献読解、卒業論文の作成をとおして、財務会計を体系的に理解できる。	論文のテーマ設定、情報収集、論文構成の作成、発表の仕方等について指導した。個人差はあるが、各自が設定したテーマについて、収集した資料から考察を行い、その結果を他者に伝える力が身についたように思われる。	授業評価 - 回収率0% 各自の関心事から研究テーマを段階的に絞っていき、それぞれの進捗状況にあわせてより細やかな指導を心掛けた。
財務会計論	達成目標 ①財務会計の基本的な枠組みおよび会計特有の用語や概念を把握・理解することができる。 ②近年の会計制度の変化の主要な流れとその背景を理解することができる。	対面授業の臨場感が少しでも得られるよう、ホワイトボードを用いて実際に授業を行い、それを動画にして配信した。対面授業のような問いかけができなかったため、受講生の理解は、課題の回答でのみしか窺い知ることができなかったが、財務会計の基礎的な概念等は、概ね伝えることができたように思われる。	授業評価4.28 (4.3、4.2、4.3、4.3、4.4) 回収率41.7% 遠隔授業だけでなく対面授業においても、スライドを用いた授業では、なかなか受講生の集中力を維持できないので、できるだけ板書しながら授業をするスタイルを維持していきたい。
簿記Ⅰ	達成目標 「現代生活と会計」で学習した内容を基礎とし、さまざまな取引(株式会社の会計処理を含む)を理解することができる。試算表および精算表を作成し、勘定式の貸借対照表および損益計算書を作成することができる。	対面授業の臨場感が少しでも得られるよう、ホワイトボードを用いて実際に授業を行い、それを動画にして配信した。対面授業のような問いかけができなかったため、受講生の理解は、課題の回答でのみしか窺い知ることができなかったが、簿記の基礎的な手続き等は、概ね伝えることができたように思われる。	授業評価3.8 (4.1、3.7、3.6、3.7、3.8) 回収率41.9% 遠隔授業だけでなく対面授業においても、スライドを用いた授業では、なかなか受講生の集中力を維持できないので、できるだけ板書しながら授業をするスタイルを維持していきたい。
経営の基礎Ⅱ	達成目標 ①他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。 ②経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 ③講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。	対面と遠隔の授業を併用することで、他者とのコミュニケーションをはかる機会をえることができた。遠隔授業では、経営学の基本的考え方、専門用語等について、自分で調べて考察する機会を得られたように思われる。	授業評価4.38 (4.4、4.3、4.5、4.4、4.3) 回収率41.7% 設定したテーマにそって、資料を収集し、考察し、その結果を発表するという機会をつくるよう心掛けた。
L202004 スポーツB【A,SD】	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	0	0 授業評価
L202039 スポーツB【S】	達成目標 ①基礎技術を習得し、ゲームの中で技能として発揮することができる。 ②「ルール」・「フォーメーション」・「戦術」を理解し、ゲームの中で発揮することができる。 ③審判を含め、ゲームを円滑に運営できる。 教養科目として、コミュニケーションを通して、自己の課題発見、課題解決を模索します。	教員2名による2種目に分かれての授業で、各々35人程度と、実技を行う上で、適正な人数であったことに加え、受講生が積極的に取り組んでくれた。 授業前に、予習課題として、授業で行う技術や戦術について、各自で調べた上で、授業に臨む準備ができ、ある程度の知識を持ちながら、調べただけでは理解不足な点を、授業の中で学ばせることができたのではと考える。学んだことをミニゲームで発揮してみることで、新たな課題や、課題解決を模索させられたと考える。 技術や戦術を身につけるには、ある程度の反復練習と、実践であるゲームの中で試行錯誤することが重要で、時間的な配分も学生の状況に合わせて実施した。	授業評価4.00 実際の成績に比例はしているが、成績評価以上に、授業評価が高かった。授業評価回答率が94.5%で、多少、授業評価が高い(達成目標の達成度が高い)学生に回答が偏った可能性も否定できない。 スポーツが得意な学生もいるため、技術練習において、より適切なアドバイスを与えながら、自身で成長を実感させられるよう工夫していきたい。
S202001 スポーツ経営管理論【開放】	達成目標 スポーツ経営・管理の基礎理論を身につけることができる。領域に応じたスポーツ経営・管理の実践スキルを身につけることができる。 スポーツにおける「戦略・マーケティング・組織・管理、ビジネスの仕組み」の基礎段階として、本講義では経営管理の基礎的な内容から、スポーツの特殊性を考慮した内容まで論理的に理解する。	経営分野の中でも、スポーツに関する内容について取り扱う科目となる。主に、経営学の基礎的な内容をスポーツに照らし合わせ内容を構成した。1年次開講科目であることから、経営に関する基礎知識をまず取り上げ、それらの解説を多く取り入れた。他の科目と重複する内容を踏まえたものとなるが、履修者にとっては繰り返しとなり、復習となっていたようである。また、それらの理解度により、評価に差が出たと感じている。一般的な経営とスポーツの経営には共通する点も多数あるが、それらを理解した上で、スポーツの経営を捉えられるよう、授業内容を構成した。これらの点でスポーツに関する経営への理解度は、ある程度深まったと感じている。	授業評価4.20 授業評価回答率が49.3%であり、全体の評価を反映したものとは捉えられないが、回答した者については、概ねよい評価であったと考えている。 今後も、一般的な経営に関する内容を織り交ぜ、スポーツに関する経営について、昨今の事情も踏まえつつ授業内容を構成していきたいと考えている。また、何らかの企画や運営に関する実践的な内容も取り入れていきたい。
S202025 個人スポーツ演習	個人スポーツに必要な基本的技能を身につけることができる。 個人スポーツにおけるルールとマナーを身につけることができる。 個人スポーツにおける戦略や戦術を工夫し、各自の技術を駆使して試合のレベル向上のための方法を考える事ができる。	スポーツ種目の中の主に個人種目について学ぶ演習形式の科目である。個人スポーツとして、硬式テニスと卓球を展開した。個人やグループでの練習活動における基本的な技術を身に付け、戦略や戦術を工夫してその成果をゲームの中で確認しながら個人技術、戦略・戦術の理解、向上を目指した。実際に活動する回数は多くはないが、基本的な技術を身につけることを中心に、それらを活かした戦術や戦略を駆使することで、より高いレベルのゲームを追求することに繋がったと考えている。実際に受講者は技術的にも向上した印象があり、より個人スポーツの特性にふれた楽しさを味わい、理解することができたのではないかと考えている。	授業評価 4.60 授業評価回答率が9.1%であり、全体の評価を反映したものとは捉えられないが、回答した者については、概ねよい評価であった。 比較的容易に実施することができる個人スポーツのうち、硬式テニスと卓球を展開した。受講者の中には経験の浅い者が多く、基本的な技術を身につけることでゲームの中での楽しさを実感できていたと思われる。今後は、基本的な技術や戦術をより理解しやすい内容にし、加えて応用技術や戦術についても多く取り入れた内容を構成していきたいと考えている。

S202035 専門ゼミナール II (新カリ)	経営上の様々な事象に問題意識を持ち、問題の構造や背景を読み解く方法・技術を身につけられるようになる。 問題や解決提案をプレゼンテーションする能力、意見や批判を受け止め、考え続けていく探求能力を身につけられるようになる。	ゼミナール形式で、前半は教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。後半は、学生が各自で検索した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルに加え、PCを用いたレポート作成やプレゼンテーションを行った。 レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。 今後は、基本的な内容だけでなく、応用的な内容も取り入れ、PCスキルや読解力をより向上させることを実践していきたいと考えている。	授業評価 回答無し
S202039 フィットネスの科学	達成目標 体力の概念・測定方法・評価方法を習得する。 健康と体力の関係について理解できる。 ライフステージに応じた健康問題と運動の視点についての知識を習得する。 プログラマーの基本資質を身につけ、スポーツマネジメントの現場で活躍する能力を養成する。	4年次開講科目のフィットネス演習につなげていく講義形式の科目である。体力の概念やその診断、運動プログラムの作成のための基礎知識を主に取り扱い、運動を処方する際に必要な基本的な知識を身につける内容となっている。主に、各年代における運動プログラムの作成や運動指導の現場に必要な内容を取り扱った。履修者は主に、運動指導を受ける側の立場であることから、運動指導を処方する立場として注意すべき点については、基本的なフィットネスの内容とともに、実際の指導場面を思い浮かべながら、より理解が深まったのではないかと感じている。	授業評価4.60 授業評価回答率が18.8%であり、全体の評価を反映したものとは捉えられないが、回答した者については、概ねよい評価であった。 運動処方においては、ヒトの身体の仕組みや心理、トレーニング、外傷・傷害に至るまで、様々な知識が必要となる。難解な内容も含まれているが、今後は、より理解しやすい、図や動画等も加え、内容を構成していきたいと考えている。運動だけでなく、疾病や環境など、ヒトの健康に関連する内容についても取り入れ、自身だけでなく周囲の人々の健康についても意識する視点を身につけられるよう、様々な内容を多く取り入れていきたいと考えている。
S202069 専門ゼミナール III	達成目標 経営的思考能力・総合的経営判断能力を身につけ、企業や会社で実際にマネジメントできる。 経営学について多角的な観点から学習し、より専門的な経営学的思考能力を身につけます。ビジネスパーソンに必要なスキルと知識を理解していく。	ゼミナール形式で、前半は教員が用意した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルについて学習した。後半は、学生が各自で検索した教材を元に、読む、書く、まとめる、といったスキルに加え、PCを用いたレポート作成やプレゼンテーションを行った。 レポート作成や卒論作成に繋がる基本的なスキルの学習であるが、繰り返し行うことで、個人差はあるが少しずつ向上していたと感じている。また、PCスキルについても同様で、普段からPCを利用する機会の有無により、理解度や習熟度に差はあるが、少しずつ慣れていくことができたと感じている。 今後は、基本的な内容だけでなく、応用的な内容も取り入れ、PCスキルや読解力をより向上させることを実践していきたいと考えている。	授業評価 回答無し
S202074 スポーツ事業論	達成目標 スポーツ事業を企画し、提供するノウハウを身につける。 スポーツマネジメントの実践的学習。ビジネスパーソン（特に、スポーツ関係従事者）に必要なスキルを活用し、行動できることを目指す。	4年次開講科目であることから、これまでの経営に関する科目の内容、およびスポーツに関連する科目の内容を総合的に織り交ぜた内容を構成した。これまでの内容を復習し、実際のスポーツ事業を企画、運営するプランを検討する課題を提示した。1つの事業を企画、運営する手順や、そのポイントを履修者自身が考えて、様々なプランを作成した。 実際に実現可能かどうかは別として、履修者自身が試行錯誤しながら、様々なプランを検討する中で、プラン作成からその運営までに必要なスキルを身につけることができたのではないかと考えている。	授業評価 回答無し
S202092 卒業研究【建部貴弘】	達成目標 体育・スポーツと社会との関わりに関連したテーマを設定し、資料収集、文献の読解、発表、ディスカッション、卒業論文の作成を通して、体育・スポーツに関する幅広い見識を体系的に身につける。 体育・スポーツを経営学、経済学、社会学、健康科学、医学といった様々な視点から捉え、社会における体育・スポーツの意義を考え、問題点を分析し、解決策を探索していく。	ゼミナール形式で、前期の専門ゼミナールIVから引き続き、前半は卒業論文の各自のテーマに沿った資料収集と卒業論文の執筆を行った。そして、収集した資料および卒業論文についてまとめ、発表することを繰り返し行った。後半は、執筆している卒業論文の完成に向けて、添削と修正を繰り返し行った。 資料収集に苦労する者もいたが、文献検索の方法の指導や参考資料を提供することで、資料収集のスキルはある程度身についたと思われる。しかし、収集した資料を読解し、精査することについては、もう少し時間をかけて取り組めるようにした方が良かったと感じている。また、これまでも繰り返し行ってきたプレゼンテーション資料の作成や、発表については、当初に比べ向上したと感じている。 今後は、資料の読解と、卒業論文の執筆方法について、早い時期から取り組むことができるよう、前期の専門ゼミナールIVも含めて、構成を検討していきたいと考えている。	授業評価 回答無し
日本語上級	日常的な場面だけでなく、より幅広い場面で使われる日本語を運用することができる。日本語能力試験N1以上レベルの文や文章を読み、書き、話すことができる。日本語能力向上に特化した学習に取り組む習慣を身につけることができる。以上3点を到達目標としている。大学での授業を受講する上で必要な優れた日本語能力及びコミュニケーション能力を修得するため、「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく学べることを教育効果としている。	履修者を出身国別に見ると、漢字圏である中国、非漢字圏であるネパール、ベトナムであった。オンライン授業のため、同国人同士で困ってしまうという心配はなかった。同国人はもちろん他国人の答えをそのままコピーして課題提出する履修者もいなかった。上級と言っても、学習者間のレベル差は大きく、日本語能力試験N1の合格を目指す者もいれば、同試験N2に受験申込みさえしない者もいた。日本語クラスは上級で終わりとなり、2年生以後はクラスが設けられていない。この点を強調して、真面目に履修するように指導した。	授業評価3.8 「語彙」「文法」「読解」「聴解」をバランスよく習得させることに気を配った。クラス内の学力格差にも留意して授業を進めた。非漢字圏の学生については、漢字能力のアップを念頭に置いて指導した。今後もその予定である。
経営の基礎 II	他者とのコミュニケーションを通じて、諸課題に対処することができる。経営学の基本的考え方・専門用語を理解・活用できる。 講義中に出てきたキーワードを活用して、現代企業の在り方について総合的に判断できる。以上3点を到達目標としている。高校生から大学生への移行をスムーズに行い、充実した大学生活を送れるように、大学生としてのスチューデント・スキルを身につけることを教育効果としている。	対面授業、しかもバワボ等の機材を使わない板書形式の授業とオンライン授業との並行だった。前者については、教師側からの一方的なスタイルにならないよう学生との対話にも力を入れた。授業内容としては、経営学の基礎となるものについて少しでも身につけさせるように工夫した。かなり手ごたえのある授業ができたと思う。	授業評価4.7 組織のメンバーの円滑なコミュニケーションは経営学の基礎であるという認識を共有し、その実践として大学祭についての話し合いをグループワークとして取り上げる予定だった。しかし、大学祭が中止になり、それはかなわなかった。グループワークにふさわしいテーマは大学祭に限らないので、その掘り出しに努めたいと考えている。

プレゼンテーションツール再履修	ICTの光と影を認識し、主体的に判断して行動することができる。課題発見、問題解決にICTを活用することができる。社外文書や表計算のデータベース化を修得し、プレゼンテーション能力を向上させることができる。以上3点を到達目標としている。現代社会において、コンピュータは社会生活に欠かせない重要なツールとして、誰もが利用できることが望まれている。特に、ネットワークに関することやワープロ・表計算・プレゼンテーションのソフトの活用は、個人はもとより企業活動にとって必要な要件になっている。コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを教育効果としている。	この授業を担当して2年目だった。1年目はテキストの使い方が、学生たちとの応答のやり方などいろいろな点でよくわからず狼狽していたが、この経験のおかげで、今回は落ち着いて授業をすることができた。対面授業とオンライン授業の並行だったが、学生からの細かい質問にもスムーズに答えることができた。まだ至らぬ点は多々あるものの、かなりの自信を持って授業をすることができた。	授業評価4.4 履修者のほとんどは留学生のため、なるべくわかりやすい言葉を用いて授業を進めた。日本人学生にとってもわかりやすかったと思う。板書授業と違って、漢字にルビを打つなどの工夫はこせなかった。だが、例えば対面授業において重要語句を取り上げる際、何度か大きな声ではっきり発音するといった工夫を心がけた。今後もその予定である。
情報リテラシー【臨時開講】	情報倫理を身につけることかできる。簡単なビジネス文書を作成することができる。簡単な表計算・グラフを作成することができる。以上3点を到達目標としている。現代社会において、コンピュータは社会生活に欠かせない重要なツールとして、誰もが利用できることが望まれている。特に、ネットワークに関することやワープロ・表計算・プレゼンテーションのソフトの活用は、個人はもとより企業活動にとって必要な要件になっている。コンピュータアプリケーションソフトの活用を通して、自分で問題解決できる能力を身に付けることを教育効果としている。	諸事情により臨時開講された科目であった。年度の途中で開講が決まったため、授業準備の時間があまりなかった。基本はオンライン授業であったが、オンラインでは難しい学生たちが相手だったので、学生たちの事情に合わせて対面指導も可能とした。試行錯誤の連続だったが、一人でも多くの単位取得者を出すように努力することはできた。	授業評価3.8 履修者の多くはパソコンに慣れていない日本人学生と、言葉の壁がある留学生であった。なるべくわかりやすい言葉を用いて授業運営を心がけた。対面指導においては、自分は今回も単位を落とすのではないかなという彼らの不安感を少しでも減らし、前向きな気持ちになれるように心がけた。
国際社会貢献論	国際社会貢献について学ぶには、その前提として、国際政治経済と社会の現状に関する理解が不可欠です。国際政治経済についての基礎知識を習得し、国際協力についての理解を深めることを目的とします。さらに、国際協力の手法を学ぶことを通じて、地域社会や国際社会でマネジメントできるようになることをめざします。	講義形式で国際協力に関する基礎知識を学習した。事前に受講生に主体的にいま話題となっている国際政治経済に関するテーマを取り上げて調べさせ、考えてきたことを発言してもらった。受講生同士にディスカッションを行わせることで、より授業の内容への理解を深めさせた。難しい国際社会の問題について、講義中にディスカッションを行ったり、国際政治や経済の現状に関心を持ってもらうため、具体的な事例を挙げながら、分かりやすく学習させることができた。	授業評価 回答無し
三河のまちづくりと観光	観光とは社会的、文化的現象のひとつであり、現代観光の仕組みや役割・影響・特長、観光を支える事業活動である観光事業を含め、観光に関する基礎的な知識を幅広く習得し、その全体像をつかむことを目的とします。観光産業の構成と特徴を理解することができる。観光政策と観光行政を理解し、観光と地域社会との関係性を理解することができる。三河地域のまちづくりと都市再生のアイデアを提案できる。	3学科共通科目で、それぞれ学習する専門分野の素材としてまわづくりに関心を持たせ、各学科における専門分野を踏まえたうえで、それぞれの学科の特徴を開ける授業であり、建築だけではなく、経営も、デザインも勉強できる科目として、幅広い知識を得られることが好評だった。またゲストスピーカーの先生方（地域で活躍する方から直接話を聞ける）ことに大変関心を示していた。また三河地域の一つの観光地或いは公共施設、商店街、一つの店などの現状について調べ、調べた内容に基づいての提案をし、発表用の原稿またはレジュメの作成をさせましたが、残念ながらコロナの関係で、発表はできなかったですが、次年度は発表できるように。	評価は4.20 回答率は51% 概ね良好な評価を得たので、これまでと同様な方式で続けていきたい。授業アンケートの結果などを参考にして、3学科の学生にも満足できる授業を目指したい。また3学科の学生それぞれの関心を考慮しながら、学科を超えた学生同士の交流ができるような授業を工夫していきたい。
中国語Ⅱ	中国語の発音構造や特徴を理解し、よく使われる基本的な表現ができる。中国語の文法の基本知識を応用できるようにすることを目的とします。中国語のそのものを勉強するだけではなく、中国語という言葉の側面にある文化や考え方についてもさらに深く理解することができる。	本講義では中国語の初學者を対象とし、文法の説明は最小限にとどめて、発音練習を中心に、中国語を多く聞き、たくさん話し、中国語への興味を育みながら楽しく学習させた。特に、日常の身近なテーマや場面で、学生が自分の意志を中国語で表現することや、中国語を話す楽しさを実感してもらった。テキストを1週で1課ずつというゆっくりとしたペースで進めた。また附録の「決まり文句」を確実に身につけさせた。授業時間外で複数回の演習問題を行わせ、授業の内容について振り返りをしてもらった。教科書の付属の「別冊問題集」を使用した。	評価は4.30 回答率23% 改善を望む点の記述として、特に意見はなかった。現状通りに授業を進めていきたい。また、「授業のスピードが速い」、「難しい」との意見もあった。授業を難しく感じている学生もいるので、具体例の解説を増やすなどの対応を行い、その後、改善或いは考慮して授業を実施している。
卒業研究	いままでゼミで習得してきたことをもとに、各自研究や課題となるテーマを見出し、研究テーマを選定し、そのテーマに向かって資料収集や調査を行いながら、文章をまとめる力を身につける。また、そのまとめについて、他の人に伝える力を身につける。	授業の前半は就職活動でゼミ生が全員揃うことがなかなか難しい状況だったため、個人指導が多かった。ゼミ生それぞれの卒業研究の進捗状況、就職活動に合わせて授業を進めた。学生の就職活動の時間を調整して授業以外の個別指導の時間を設けるようにした。各ゼミ生の進捗に合わせた指導を心掛けた。	授業評価 回答無し
専門ゼミナールⅡ（新力り）	ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	学生のグループワークの時間をより多く取るようにした。ゼミ生一人一人が学習した経営学的観点から、関心のあるテーマを選んで、指導中はディスカッションを取り入れ、互いが興味をひく発問にペアワークで答えさせる機会を設け、議論した内容を発表させた。最終的には個人発表をするテーマに繋ぎ、ゼミ生が自主的に学習できるように工夫した。	授業評価 回答無し
観光概論	観光の基本を学べることができます。観光産業の基礎の成り立ちを知り、現代社会と観光との関わりを大まかに理解すること。さらに現代の観光産業について理解を深め、グループ学習や発表によって、現代の観光産業を各方面から分析し、その問題点を洗い出すことができるようになります。	3学科の開講科目で、それぞれが学習する専門分野や知識を踏まえたうえで、観光産業の基礎、概念、およびそれらの要素について学び、観光の特性と意義を理解するとともに、国内旅行、海外旅行、外国人の訪日などについての現状を理解し、様々な観光ビジネスについて自ら考えさせる時間設けた。グループ学習や発表によって、現代の観光産業を各方面から分析させ、その問題点を洗い出させることができた。授業の後半は調べたことを発表させた。不安を感じながらも、なんと発表できました。	評価は4.40 回答率は30% 改善を望む点の記述として、特に意見はなかった。現状通りに授業を進めていきたい。また、「授業のスピードが速い」との意見があったため、以降、改善或いは考慮して授業を実施している。動画を導入するようにもした。
日本語中級 留学生対象	0	0	履修登録者は3名でしたが、一人も受講しなかった。授業評価 回答無し
専門ゼミナールⅡ	ビジネスパーソンとして必要な経営的思考能力や教養、職業的倫理観を身につけ、総合的に、かつチームとしての視点から判断できるための能力を培う。	毎回の授業内容への理解を深めるため、各自が感心を持つテーマについて主体的に調べさせ、考えてきたことを発言してもらった。また、普段からゼミ生とのコミュニケーションを深めることに努め、一人一人が学習面でも困っていることに応え、大学生生活を楽しく続けるための意欲をだしてもらえるように、学生に寄り添うように努めた。	授業評価 回答無し